ウオーミングアップ その11

共同研究の進め方を考える

１１年目研修の教育課題研究や、教科研究会などの研究では、メンバー個々の方向性や実践のすり合わせや集約が必要になってくる。複数のメンバーで研究を進める場合のモデルについて検討する。

■　１１年目研修教育課題研修（校種合同研究）から

島根県の１１年目研修では、先に述べたように、個人で行う教科等に関する特定課題研究と、教科外の内容で行う教育課題研修の二つの研究が設定されている（平成１９年度実績による）。

ここでは、教育課題研修のような、複数の教員による共同研究の進め方を考察したい。

１１年目研修では、平成１５年度より、複数の校種が合同で行う「教育課題研修」が設定された。

異校種が４～６人集まってグループを編成し、共同で研究を行う研修である。この研修では、まず受講者の「研究」への共通理解が最初の難関であった（詳細については p24～29 の内容参照）。

研究への見通しを容易にするため、研究の手引きとして「研究の進め方例」を、平成１８年度は一部のグループに試行的に配布し、平成１９年度はすべてのグループに配布して研修を行った。

平成１９年度研修の受講者アンケートから、「研究の進め方例」使用に関連すると思われる記述を抜粋した。

- 進め方のモデル例をいただいたので、今何をすべきかがよくわかった。
- テーマに沿って研究を進めていくためのプロセスがわかってきた。じぶんの課題研究のまとめにも役立ちそう。
- ねらいをはっきりと持つことができ、どのように実践するのかもわかった。
- 研究の方法を知ることができ、勉強になった。
- 校種の異なる児童生徒の現状や問題も異なる中で、共有しながら一つのテーマに向かって研究を進めていくことに感銘を受けた。
- この研修は三日間でなく、二日間でも良いのではないか。（６名）

このような記述はこれまでにあまり見られなかった特徴的な内容である。

「研究の見通しができた、研究の進め方がわかった」「この研修は３日間ではなく２日間でも可能」という記述がそれぞれ受講者の約１割に見られたが、これらの内容は前年度までのアンケートではほとんど見られなかった記述であり、特に期間が２日間でよいという内容はこれまで全く記述されていない。

以前は研究の見通しがないことに起因すると思われる協議の停滞が見られ、「協議の時間が足りない」とする意見も多かった。しかし、平成１９年度は、研究への見通しや共通理解が持てたことにより、研究の見通しを共通理解するために要する時間ではなく、各テーマそのものへの追求を研究の主体とすることができたものと思われる。沈黙の続く重苦しい雰囲気になることも少なかった。

中間発表も、これまでに比べ、実践や検証の方法が具体的に設定され、研究のねらいが明らかに示されており、明確な方向性を持って協議が行われたことがうかがえた。

なお、先に示した研究パターンⅠ～Ⅲ型のうち、この**教育課題研修のシステムに最も適しているのはⅠ型の観察→仮説→検証の研究パターン**である。従って、下の研究の進め方の例でも、Ⅰ型による研究の流れを示している。

この研究の流れは、学校内で複数の教員によって行う研究や、地区で行う共同研究の際にも応用できる流れである。地区共同で行う研究の場合には、観察→仮説のⅢ型研究パターンも多く見られるが、その場合でも**何を（どの部分を）共同で行って、何を（どの部分を）個々に追及するのかを明確にしておくこと**が重要である。一般に、帰納的な部分を共同で、演繹的な部分を個人で行うことになる。

■　１１年目研修教育課題研修（教科外）研究の進め方（共同研究）の例

第Ⅱ回研修

① 課題テーマについて、メンバーそれぞれが現在課題と考えている子ども・学校等の実態をあげ、それぞれの課題を共有する。*・・・個から共同へ*　**実態の把握**

第Ⅲ回研修

② メンバー共通の課題、特に追求してみたい課題を見つける。　**課題の発見**

③ その課題について、子ども・学校等にどういう姿を目指したいのか、何を明らかにしようとしているのかをまとめる。　**研究の目的**

④ ②を③にするために、何をどのようにすれば良いと考えるかを明確にする。　**仮説の設定**

⑤ ④を、具体的には、どのように実践や追及するのかを検討する。　**実践方法の設定**

⑥ ④が立証されたかどうかを判断する方法を考える。　**検証方法の設定**

⑦ 各校で実践するための準備を行う。　**実践の準備**

中間発表　※Ａ４判１枚のレジュメにより、代表者が登壇発表

８～１月

⑧ メンバーが各校で④に基づいた教育活動を行う。*・・・個の活動*　**実践・追及**

第Ⅳ回研修

⑨ ⑧を持ち寄って共有し、メンバーの各データから④が立証されたかどうかを検討する。*・・・個から共同へ*　**結果の検証**

⑩ ④が機能したのはなぜか、機能しなかったのはなぜかを検討する。　**考察**

⑪ この研究で何が明らかになったか、また実践上の課題や、さらにどのような教育活動が必要かをまとめる。　**まとめと今後の課題**

成果発表　※模造紙２枚程度のポスターにより、全員が輪番発表